



エコアクション21 環境経営レポート



対象期間 2020年04月～2021年03月

発行日 2021年05月26日

改訂日 2021年11月01日

 **SMC プレコンクリート 株式会社**

目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	4
6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価	7
7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	11
8. 火災訓練状況	13
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟など	13
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	14

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

SMCプレコンクリート株式会社

代表取締役社長 多田 耕二

(2) 所在地

本店：東京都台東区根岸一丁目2番17号 住友不動産上野ビル7号館3階

栃木工場：栃木県下野市仁良川1700番地

茨城工場：茨城県常総市大生郷町6138番地8

茨城支店：茨城県常総市大生郷町6138番地8

北関東営業所：栃木県下野市仁良川1700番

いわき営業所：福島県いわき市平童子町4番地18 いわき建設会館4階

仙台営業所：宮城県仙台市青葉区大町1丁目1番6号 第1青葉ビル5階

(3) 環境管理責任者氏名及び事務局連絡先

環境管理責任者 安全環境部長 : 飯塚 宏 TEL: 03-6458-1863 FAX: 03-5824-9056
Eメール: h_iiduka@precon.co.jp

事務局 管理部長 : 西畑 和夫 TEL: 03-6458-1861 FAX: 03-5824-9056
Eメール: k_nishihata@precon.co.jp

(4) 事業活動の内容

建築物の設計・施工及びプレキャストコンクリート部材の設計・製造

(5) 事業の規模

主要製品の生産量・出荷額 総売上高95億円/2020年度

表-1.1 事業所の従業員数と延床面積

	本店	いわき営業所	仙台営業所	栃木工場 北関東営業所	茨城工場 茨城支店	工事部
従業員数	39名	2名	2名	54名	25名	11名
延床面積	356 m ²	37 m ²	40 m ²	14,616 m ²	11,686 m ²	「本店」の延床面積に含まれる

2. 対象範囲

(1) 登録組織名及び対象範囲

- 登録組織名：SMCプレコンクリート株式会社
- 対象範囲：全組織・全活動

3. 環境経営方針

SMC プレコンクリート株式会社 環境経営方針

環境理念

SMCプレコンクリート株式会社は、環境に配慮した技術開発や設計提案を通して、建設活動に対する多様な要請に応え、地球規模での環境への貢献が求められていることを認識し、環境の保全、維持、改善に積極的に取り組めます。

環境方針

経営における課題とチャンスとを踏まえるととともに、次を行動指針として取り組めます。

1. 節電と省エネルギー化を進め、CO₂排出量の削減・地球温暖化防止に努めます。
2. 資源の有効利用を図り、廃棄物の削減と再生利用に努めます。
3. 節水活動に取り組み、水使用量の削減に努めます。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に配慮した建設工事、プレキャストコンクリート部材の製造・販売に努めます。
6. 環境関連の法令・条例等を遵守し、継続的な環境活動の改善を図ります。

全従業員及び当社で従事する全ての人々に対して環境方針の周知を図ると共に、協力会社に本方針の周知と協力を徹底します。

改定日 2019年10月1日

 **SMCプレコンクリート株式会社**

代表取締役社長 多田耕二

4. 環境経営目標

(1) 2020年度の環境経営目標

単年度の環境経営目標として、次のa.～e.を定めた。

- a. CO₂排出量：購入電力、ガソリン、軽油、及びプロパンガスの使用量を3%削減、
但し、A重油使用量は基準年使用量以下とする^{※1}
- b. 廃棄物排出量：一般廃棄物及び産業廃棄物排出量を基準年排出量以下とする
- c. 水使用量：水の使用量を基準年使用量以下とする
- d. 化学物質使用量：使用数量管理の徹底
- e. 工事及び製造：環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数2以上

(2) 中期環境経営目標

2022年度までの中期環境経営目標として、次のa.～e.を定めた。

- a. CO₂排出量：購入電力、ガソリン、軽油、及びプロパンガスの使用量を5%削減、
但し、A重油使用量は基準年使用量以下とする^{※1}
- b. 廃棄物排出量：一般廃棄物及び産業廃棄物排出量を基準年排出量以下とする
- c. 水使用量：水の使用量を基準年使用量以下とする
- d. 化学物質使用量：使用数量管理の徹底
- e. 工事及び製造：環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数6以上

※1 A重油の使用量は、プレキャストコンクリート部材の製品品質に多大な影響を及ぼすため、総量把握とし削減目標を設定しない

(3) 基準年の環境負荷項目と環境負荷量

基準年は、2017年度（2017年4月～2018年3月）とし、その環境負荷総量を表-4.1に示す。本店の実績値は、本店事務所と営業所（仙台・いわき）を加算した値である。

表-4.1 基準年の環境負荷項目と環境負荷量

テーマ	環境負荷項目	2017年度の環境負荷量					
		単位	全社	本店	栃木工場	茨城工場	工事部
CO ₂ 排出量	購入電力	kWh	2,158,356	46,904	1,279,480	803,336	28,636
	ガソリン使用量	L	24,276	11,379	11,035	1,334	528
	軽油使用量	L	64,762	0	56,860	7,841	61
	A重油使用量	L	385,900	0	0	385,900	0
	プロパンガス使用量	kg	1,851	0	1,835	^{注1} 16	0
	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	2,059	49	638	1,357	15
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	kg	10,542	3,576	4,200	2,766	0
	産業廃棄物排出量	ton	7,893	0	5,211	2,379	303
総排水量	水使用量	m ³	66,144	0	43,559	21,902	684
化学物質	化学物質使用量	kg	85	0	16	69	0
工事及び製造	環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数	件	2	全社として把握			

注1：茨城工場のプロパンガス使用量は、総量把握とし削減目標を設定しない

※ CO₂排出係数は下記の調整後の係数を使用した。

本店、工事部：2017年 東京電力エナジーパートナー(株)（参考値）事業者全体 0.474 kg-CO₂/kWh

栃木工場、茨城工場：2017年 リコージャパン(株)（参考値）事業者全体 0.359 kg-CO₂/kWh

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

(1) 実施体制

環境経営システムの実施体制は、図-5.1の通りである。

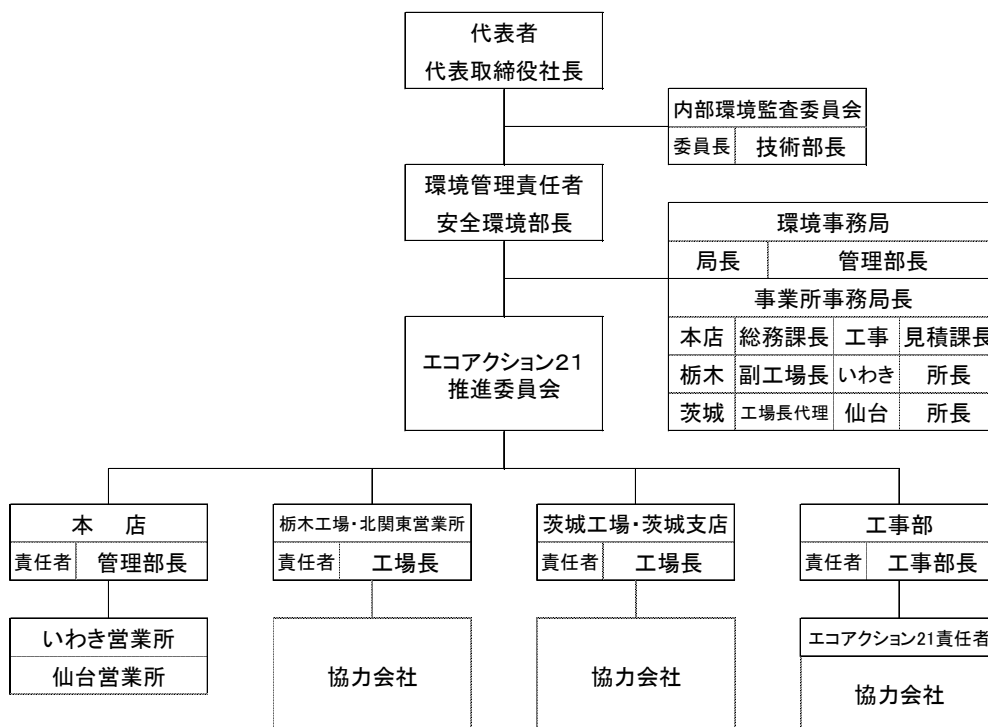


図-5.1 環境経営システムの実施体制

(2) 実施体制における役割・責任及び権限

環境経営システムの実施体制における役割・責任及び権限は、表-5.1の通りである。

表-5.1 実施体制における役割・責任及び権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> a. 『環境経営方針』を定める b. 環境管理責任者を任命し、実施体制を構築する c. 環境経営システムの実施及び管理に必要な経営資源（人員、設備、費用等）を用意する d. 『環境経営レポート』を承認する e. 全体の評価と見直しを実施し、必要な指示を行う
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境経営システムを構築し、維持する b. 社外からの環境に関する苦情や要望に対する必要な対応・回答を行う c. 環境経営計画の進捗状況を確認・評価する d. 全体の見直しに必要な情報を代表者へ報告する e. 『環境経営レポート』を確認する
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境管理責任者及びサイト責任者の補佐、E A 2 1 推進委員会の事務局 b. 各月の資料取りまとめ及び整理を行い各担当者への周知、必要に応じて資料等を配布する c. 『環境経営レポート』を作成し、公開する（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
E A 2 1 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境経営目標・環境経営計画を審議する b. 環境活動実績を確認し評価する
サイト責任者	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境経営方針及び各自の役割、責任及び権限をサイト内従業員へ周知・徹底する b. 事務局と協議し、教育・訓練を実施する c. 『環境経営計画』に従った取り組みを実施し、必要な記録を作成し報告する
エコアクション21責任者	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境経営計画の実施・環境関連法規を遵守する b. 新規入場者教育、近隣住民とのコミュニケーション、緊急事態対応
内部環境監査委員会	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境に関する内部監査を計画する b. 環境に関する内部監査を実施し結果を報告する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境経営方針を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚する b. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

(3) 環境経営計画に基づき実施した取組内容

各サイトの2020年4月から2021年3月までの、環境経営計画及び環境経営計画に基づき実施した取組内容を表-5.2から表-5.5に示す。

表-5.2 環境営計画に基づき実施した取組内容【本店】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2020年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	46,904	△7.8	43,260	1. 昼休み時、不必要時の事務所消灯の徹底 2. クールビズ、ウォームビズの取組継続	・昼休み時、不必要時の事務所の消灯を実施徹底した ・クールビズの実施
ガソリン 使用量	L	11,379	△43.3	6,447	1. エコ安全運転講習会への参加やエコ安全運転の情報収集 2. 営業車両利用時の業務効率化 (営業車両の効率的利用や公共交通機関の利用)	・エコドライブ関連資料の掲示と車の常備を継続した ・現状の営業車両減やリースとカーシェアの検討した(費用比較等含む)
一般廃棄物 排出量	kg	3,576	△28.4	2,559	1. 両面・縮小コピーの有効利用 2. 社内届出、会議のペーパーレス化に取組む	・コピー機の使用枚数を削減した。 ・会議のペーパーレス化を実施

表-5.3 環境営計画に基づき実施した取組内容【栃木工場】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2020年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	1,279,480	△4.1	1,227,344	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定温度目安の設定 (夏期：28℃、冬期：20℃) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工場内照明の見直し及びLEDの積極的な導入	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯を実施 2. 室内温度を夏期：28℃、冬期：20℃を目安とした 3. 水銀灯をLED照明へ交換した
ガソリン 使用量	L	11,035	△21.0	8,717	1. 営業車両利用時の業務効率化 (効率的利用経路) 2. アイドリングストップの励行	1. 営業車両の経路の効率化を実施 2. アイドリングストップを実施
軽油使用量	L	56,860	△7.0	52,880	1. プラント周辺でのコン待ち待機時のアイドリングストップの徹底 2. 場内速度の厳守	1. 待機時のアイドリングストップ実施 2. 場内速度の厳守
プロパンガス 使用量	kg	1,835	△11.0	1,634	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 蒸気漏れ等、設備からのロス低減	1. 夏季の蒸気養生の削減 2. 蒸気漏れ等、設備点検を実施
一般廃棄物 排出量	kg	4,200	+19.3	5,012	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進	1. 個人ごみの持ち込みを監視した 2. コピー用紙裏面の再利用実施
産業廃棄物 排出量	ton	5,211	+12.2	5,847	1. 廃棄物分別の強化 2. 定期的な処分費の公開による意識改革実施 3. コンクリートロスの低減、資材発注時の無駄の排除	1. 廃棄物分別の指導を実施 2. 処分費を安全衛生委員会にて報告
水使用量	m ³	43,559	+29.8	56,539	1. 節水の励行 2. 不必要な放水の禁止 3. 設備的漏水の撲滅	1. 朝礼時に節水励行を指導した 2. 設備の定期点検を実施した
化学物質 使用量	kg	16	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理 2. 数量管理の徹底	実績無し

表-5.4 環境営計画に基づき実施した取組内容【茨城工場】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2020年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	803,336	+5.3	846,252	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定温度目安の設定（夏：28度、冬20度）他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工場内照明のLED化推進	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯を徹底した 2. 体感温度の目安を厳守した
ガソリン 使用量	L	1,334	+29.6	1,729	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない	1. アイドリングストップを実施した 2. 急発進、急加速をしないを実施した
軽油使用量	L	7,841	+32.6	10,400	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない	1. アイドリングストップを実施した 2. 急発進、急加速をしないを実施した
A重油使用 量	L	385,900	±0	385,900	1. 外気温管理による養生の有無の適正管理 2. 蒸気漏れ等、設備からのロスの低減	1. 外気温による養生の有無を適正に判断した 2. 養生設備の点検を実施した
一般廃棄物 排出量	kg	2,766	+80.4	4,991	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進 3. ゴミの分別徹底	1. 個人ごみ持ち込み廃棄を禁止した 2. コピー用紙の有効利用を実施した 3. ゴミの分別を徹底した
産業廃棄物 排出量	ton	2,379	+31.3	3,124	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減 2. リデュース、リユース、リサイクルの3R活動推進	作業ミスによる廃棄物量の削減に努めた
水使用量	m ³	21,902	△3.7	21,088	1. 節水の励行（蛇口はきちんと閉める等） 2. 漏水がないよう適宜点検を行い、未然に防ぐ	1. 節水の励行を実施した 2. 漏水がないよう点検を実施した
化学物質 使用量	kg	69	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順の遵守 2. 数量管理の徹底	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理を実施した 2. 数量管理を徹底した

表-5.5 環境営計画に基づき実施した取組内容【工事部】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2020年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	28,636	△35.5	18,456	1. 昼休み時、不必要時の事務所、現場内、休憩所の消灯を徹底する 2. エアコンの設定温度目安の設定（夏：28度、冬20度）他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工程の短縮による仮設電気の早期撤去	1. 各現場、昼休みは消灯した 2. エアコンの設定温度を夏は28度、冬は20度とた 3. 現場事務所、作業員詰所に節電の表示をし、節電に心がけた
産業廃棄物 排出量	ton	303	△20.8	240	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減 2. 搬入資材の梱包の簡素化 3. 一般ゴミの持ち帰り 4. 廃棄物の分別収集の徹底 5. 廃棄物の資源化	1. 産業廃棄物を少なくなるように、工事計画をし、実施に努めた 2. 笹塚団地では、産廃の分別を金属、コンクリートガラ、木、紙、廃プラを実施徹底した
水使用量	m ³	684	△47.2	361	1. 高圧洗浄機の漏水防止の為、漏水防止つきノズルを使用する 2. 高圧洗浄機を使用する作業を短期に集中して行うように作業計画を作成する 3. 手洗い所の蛇口への節水コマの取り付け	1. 手洗い場に、節水の表示をし、作業員全員に節水を指示した 2. 高圧洗浄の実施時は、水道の蛇口を調整して無駄な使用を抑えた
環境対策工 事、環境対 策部材製造 の提案又は 実施した件 数	件	2		2	1. UR都市機構の入札時に、「環境配慮に関する取組み」を積極的に提案する 2. 環境負荷低減につながる工事及び部材製造を積極的に実施する	UR入札時4項目の提案を行ったが、受注に結び付けず実施0件。

6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

各サイトの2020年4月から2021年3月までの、環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価を表-6.1から表-6.5に、図-6.1に年度別エネルギー使用量、図-6.2にCO2排出量、図-6.3に環境負荷の排出量及び使用量を示す。

表-6.1 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【本店】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2020年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー使用量	購入電力	46,904 kWh	△7.8	43,260 kWh	△7.8	42,844 kWh	目標達成
	ガソリン使用量	11,379 L	△43.3	6,447 L	△43.3	5,448 L	目標達成
CO2排出量	総量 (ton-CO2)	49	△27.3	36	△32.3	33	目標達成
	原単位 (ton-CO2/人)	1.134	△32.1	0.770	△36.8	0.716	目標達成
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	3,576 kg	△28.4	2,559	△28.4	2,013 kg	目標達成

表-6.2 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【栃木工場】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2020年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー使用量	購入電力	1,279,480 kWh	△4.1	1,227,344 kWh	△2.8	1,243,097 kWh	目標未達
	ガソリン使用量	11,035 L	△21.0	8,717 L	△55.7	4,888 L	目標達成
	軽油使用量	56,860 L	△7.0	52,880 L	△18.8	46,191 L	目標達成
	プロパンガス使用量	1,835 kg	△11.0	1,634 kg	+3.1	1,891 kg	目標未達
CO2排出量	総量 (ton-CO2)	638	△5.5	603	△8.6	583	目標達成
	原単位 (ton-CO2/m ³)	0.199	+0.8	0.201	△2.7	0.194	目標達成
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	4,200 kg	+19.3	5,012 kg	△0.9	4,164 kg	目標達成
	産業廃棄物排出量	5,211 ton	+12.2	5,847 ton	+0.5	5,240 ton	目標達成
水使用量		43,559 m ³	+29.8	56,539 m ³	+37.6	59,926 m ³	目標未達
化学物質使用量		16 kg	-	-	-	0 kg	-

表-6.3 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【茨城工場】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2020年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 一使用量	購入 電力	803,336 kWh	+5.3	846,252 kWh	△0.1	802,465 kWh	目標達成
	ガソリン 使用量	1,334 L	+29.6	1,729 L	+4.8	1,398 L	目標達成
	軽油 使用量	7,841 L	+32.6	10,400 L	+11.7	8,762 L	目標達成
	A重油 使用量	385,900 L	±0	385,900 L	+8.9	420,100 L	目標未達
CO2排出 量	総量 (ton-CO2)	1,357	+18.3	1,605	+7.0	1,452	目標達成
	原単位 (ton-CO2/m ³)	0.590	+6.1	0.626	+32.3	0.781	目標未達
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	2,766 kg	+80.4	4,991 kg	+75.5	4,855 kg	目標達成
	産業廃棄物 排出量	2,379 ton	+31.3	3,124 ton	+25.5	3,627 ton	目標未達
水使用量		21,902 m ³	△3.7	21,088	△5.7	20,659 m ³	目標達成
化学物質使用量		69 kg	-	-	-	297 kg	-

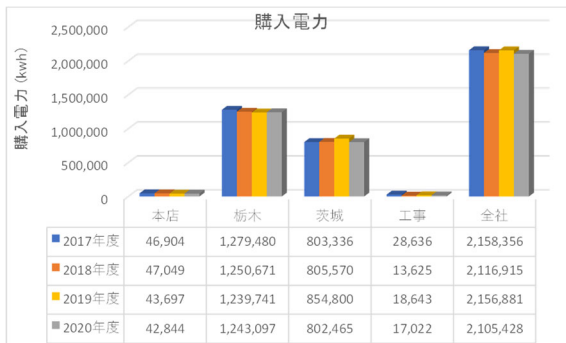
表-6.4 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【工事部】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2020年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 一使用量	購入 電力	28,636 kWh	△35.5	18,456 kWh	△40.6	17,022 kWh	目標達成
CO2排出 量	総量 (ton-CO2)	15	△41.9	9	△29.3	11	目標未達
	原単位 (ton-CO2/M ³)	0.387	△22.4	0.300	+46.5	0.567	目標未達
廃棄物 排出量	産業廃棄物 排出量	303 ton	△20.8	240 ton	△0.5	301 ton	目標未達
水使用量		684 m ³	△47.2	361 m ³	△68.8	213 m ³	目標達成

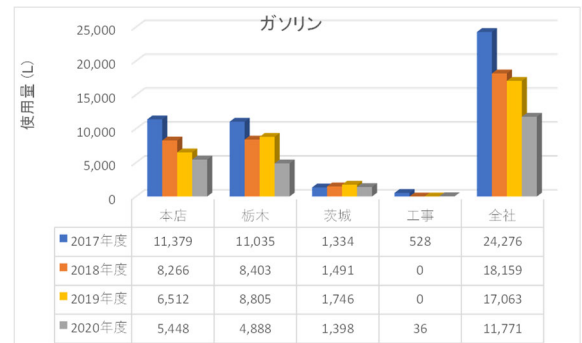
表-6.5 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【全社】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2020年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 使用量	購入 電力	2,158,356 kWh	△1.1	2,135,312 kWh	△2.5	2,105,428 kWh	目標達成
	ガソリン 使用量	24,276 L	△30.4	16,892 L	△51.5	11,771 L	目標達成
	軽油 使用量	64,762 L	△2.3	63,282 L	△13.7	55,888 L	目標達成
	A重油 使用量	385,900 L	±0	385,900 L	+8.9	420,100 L	目標未達
	プロパンガス 使用量	1,851 kg	△10.3	1,660 kg	+4.0	1,925 kg	目標未達
CO2排出 量	総量 (ton-CO2)	2,059 (1,013)	+9.3 (△3.1)	2,250 (982)	+1.0 (△7.2)	2,079 (940)	目標達成
	原単位 (kg-CO2/M¥)	229 (113)	+14.4 (+1.4)	262 (114)	△4.3 (△12.0)	219 (99)	目標達成
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	10,542 kg	△1.1	10,331 kg	+4.6	11,032 kg	目標未達
	産業廃棄物 排出量	7,893 ton	△1.1	7,735 ton	+16.2	9,168 ton	目標未達
水使用量		66,144 m3	△1.1	64,821 m3	+22.2	80,798 m3	目標未達
化学物質使用量		85 kg	—	—	—	486 kg	—
工事及び製造		2		2		0	目標未達

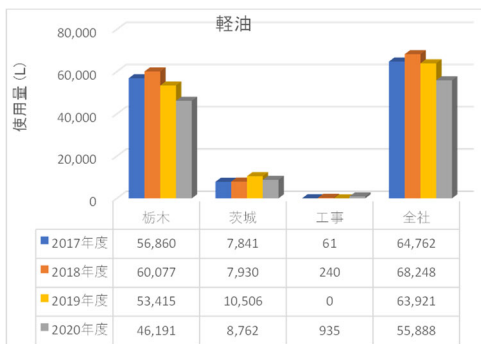
※ CO2排出量の () 内数値は、全エネルギー使用量からA重油使用量を減じた値である。



(A) 購入電力



(B) ガソリン



(C) 軽油

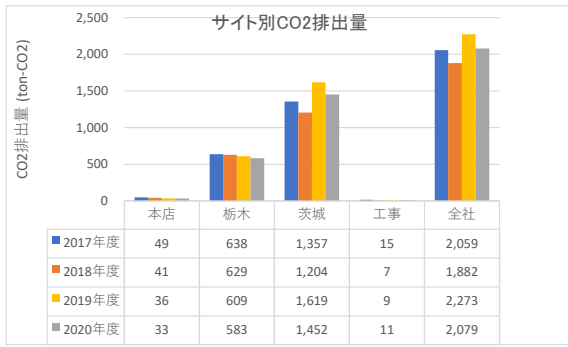


(D) A重油

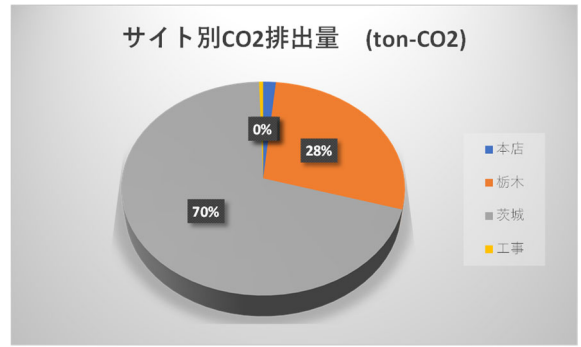


(E) LPG

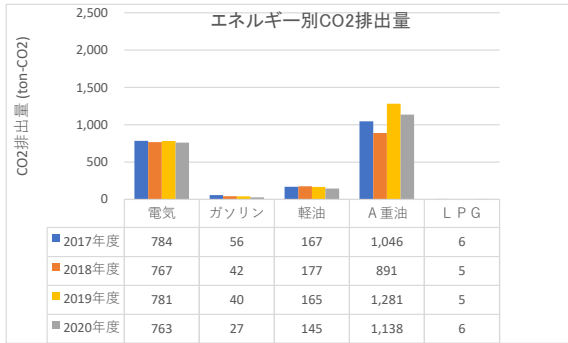
図-6.1 年度別エネルギー使用量



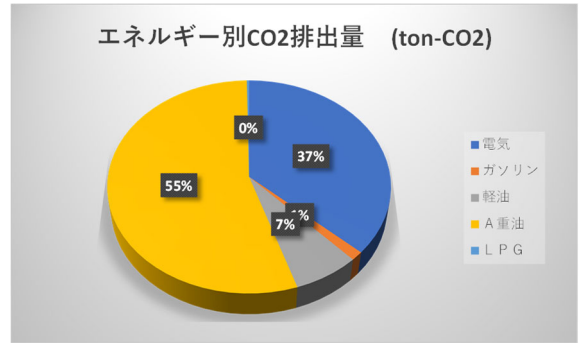
(A) サイト別CO2排出量



(B) 2019年度サイト別CO2排出量

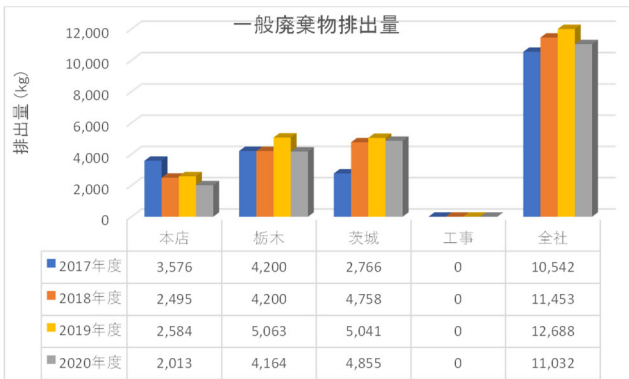


(C) エネルギー別CO2排出量

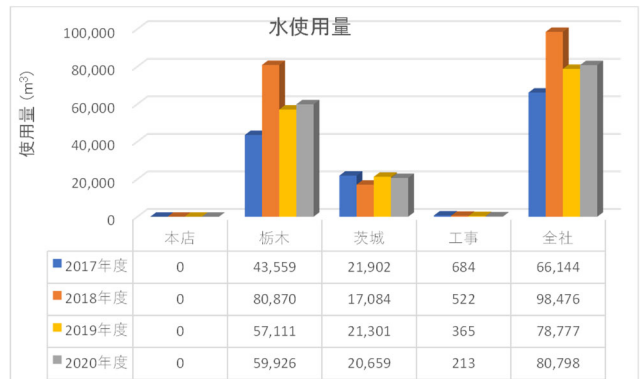


(D) 2019年度エネルギー別CO2排出量

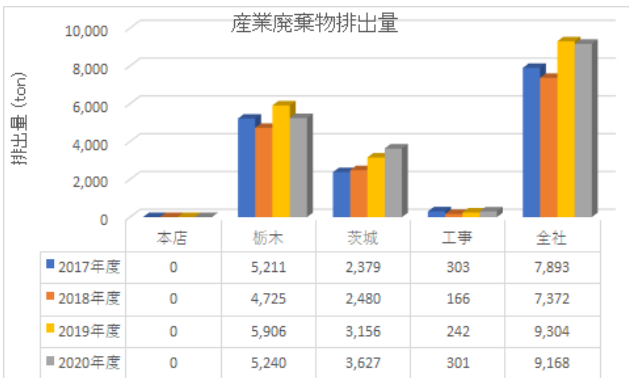
図-6.2 CO2排出量



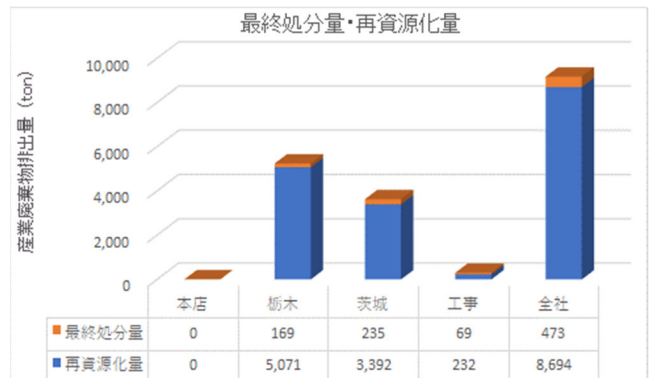
(A) 一般廃棄物排出量



(B) 水使用量



(C) 産業廃棄物排出量



(D) 産業廃棄物最終処分量・再資源化量

図-6.3 環境負荷の排出量及び使用量

7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

各サイトの2021年4月から2022年3月までの、環境経営目標及び環境経営計画を表-7.1から表-7.4に示す。

2021年度の環境経営目標は、2020年度の実績の△1%とする。

表-7.1 次年度の環境経営目標と環境経営計画【本店】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2021年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	46,904	△9.6	42,416	1. 昼休み時、非必要時の事務所消灯の徹底 2. クールビズ、ウォームビズの取組継続
ガソリン使用量	L	11,379	△52.6	5,394	1. エコ安全運転の執務室掲示、車両内常備 2. アイドリングストップの励行 3. 営業車両利用時の業務効率化（営業車両の効率利用）
一般廃棄物 排出量	kg	3,576	△44.3	1,993	1. 会議のペーパーレス化の継続 2. 届出書式の一部ワークフロー化 3. コピー機の使用枚数の削減

表-7.2 次年度の環境経営目標と環境経営計画【栃木工場】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2021年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	1,279,480	△3.8	1,230,666	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定温度目安の設定（室内温度） （夏期：28℃、冬期：20℃）他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. カーボンフリー電力の導入
ガソリン使用量	L	11,035	△56.1	4,839	1. 営業車両利用時の業務効率化（効率的利用経路） 2. アイドリングストップの励行
軽油使用量	L	56,860	△19.6	45,729	1. プラント周辺でのコン待ち待機時のアイドリングストップの徹底 2. 場内速度の厳守
プロパンガス 使用量	kg	1,835	+2.0	1,872	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 蒸気漏れ等、設備からのロス低減
一般廃棄物 排出量	kg	4,200	△1.9	4,122	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進
産業廃棄物 排出量	ton	5,211	△0.4	5,188	1. 廃棄物分別の強化 2. 定期的な処分費の公開による意識改革実施 3. コンクリートロスの低減、資材発注時の無駄の排除
水使用量	m ³	43,559	+36.2	59,326	1. 節水の励行 2. 不必要な放水の禁止 3. 設備的漏水の撲滅
化学物質 使用量	kg	16	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理 2. 数量管理の徹底

表-7.3 次年度の環境経営目標と環境経営計画【茨城工場】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2021年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	803,336	△1.1	794,440	1. 昼休み時、不要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定目安の温度の設定 (夏: 28度、冬20度) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工場内の積極的なLED照明の導入
ガソリン使用量	L	1,334	+3.7	1,384	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. タイヤ空気圧の適宜確認
軽油使用量	L	7,841	+10.6	8,674	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. タイヤ空気圧の適宜確認
A重油使用量	L	385,900	±0	385,900	1. 外気温の管理による養生有無の適正管理 2. 断熱効率の良い養生シートの使用又は養生方法の検討
一般廃棄物 排出量	kg	2,766	+73.8	4,806	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進(裏紙の利用等) 3. ゴミの分別徹底
産業廃棄物 排出量	ton	2,379	+52.5	3,627	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減 2. リデュース、リユース、リサイクルの3R活動推進
水使用量	m ³	21,902	△6.6	20,452	1. 節水の励行(蛇口はきちんと閉める等) 2. 漏水がないように適宜点検を行い、未然に防ぐ
化学物質 使用量	kg	69	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順の遵守 2. 数量管理の徹底

表-7.4 次年度の環境経営目標と環境経営計画【工事部】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2021年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	28,636	△10.0	25,767	1. 昼休みおよび不必要時の事務所、詰所の消灯を行う 2. エアコンの設定温度、夏28度冬20度を継続して実施する 3. クールビズ、ウォームビズの取り組み 4. 工期短縮による節電の実施
軽油使用量	L	61	△10.0	54.9	1. 発電機の使用を少なくするような工事計画を行う 2. 発電機を使用する場合は不要な時のこまめなエンジン停止の実施
産業廃棄物 排出量	ton	303	△20.8	240	1. 作業ミスによる廃棄物の発生を抑える 2. 搬入資材の梱包の簡素化 3. 一般ごみの持ち帰り 4. 廃棄物の分別の徹底
水使用量	m ³	684	△47.2	361	1. 高圧洗浄機の漏水防止のため、漏水防止ノズルを使用する 2. 高圧洗浄時のこまめ止水を行う 3. 手洗い場等に節水の表示を行う
環境対策工事、 環境対策部材製造 の提案又は実施 した件数	件	2		2	1. UR都市機構の入札時に、「環境配慮に関する取組み」を積極的に提案する 2. 環境負荷低減につながる工事及び部材製造を積極的に実施する

8. 火災訓練状況

各サイトにおいて実施した2020年度の火災訓練実施状況を図-8.1に示した。



(A) 栃木工場（消火活動）



(B) 栃木工場（けが人搬送）

図-8.1 火災訓練状況

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟など

当社に適用される主な環境関連法規は表-8.1に示す通りで、4月1日～15日遵守評価の結果、これらへの違反はありませんでした。

なお、2020年度の関係当局よりの違反等の指摘はありませんでした。

表-9.1 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果

適用環境関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
騒音規制法	バンディングマシーン せん断機 空気圧縮機 コンクリートプラント	届出・地域別基準遵守 問題なし
	特定建設作業	届出・地域別基準遵守 問題なし
振動規制法	せん断機 圧縮機	届出・地域別基準遵守 問題なし
	特定建設作業	届出・地域別基準遵守 問題なし
水質汚濁防止法	バッチャープラント 水養生施設（蒸気養生施設を含む）	届出・地域別基準遵守 問題なし
大気汚染防止法	ボイラー	届出・地域別基準遵守 問題なし
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物	ビル管理会社処理等 問題なし
	産業廃棄物	委託契約・標識設置等 問題なし
		多量排出事業者
建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	特定建設資材	届出等 問題なし
消防法	危険物の規制	届出・法定点検 問題なし
	甲種防火対象物	届出・点検 問題なし

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、収束が見通せない状況の中で、当社を取り巻く環境は、大きく変化いたしました。

コロナ感染予防対策の強化と並行して、働き方の変化が加速しており、業務の進め方と管理手法についても迅速に行う必要がありました。

出社制限による在宅勤務、WEBによるコミュニケーションなど環境の変化が、『無理、無駄、ムラ』の排除、生産システムの効率化、業務の効率化による労働者の作業時間短縮、社員の労働時間短縮を検討、推進する機会にもなりました。

エコアクションの2020年度の取組は、このようなコロナとの共存する中での取り組みとなりました。

そのような状況においても目標を達成した項目も多く、各事業所がスピード感をもって環境の変化の中、挑戦した企業活動の成果であると考えます。また、達成できなかった項目は、重点的に見直し改善を図っていきます。

今年度末は、さらなるCO2削減に向けて、栃木・茨城両工場で、カーボンニュートラルの第一歩として、リコー再生エネエコノミー30を契約し、調整後のCO2排出係数が0.359 kg-CO2/kWhから0.350 kg-CO2/kWh以下となり、二酸化炭素が削減されます。

※リコー再生エネエコノミー30は、非化石証書(再生エネ指定)を用いて、実質再生可能エネルギー30%、二酸化炭素実排出係数を0.000350t-co2/kWh以下にするプラン。

2050年度の温暖化ガス排出量を実質ゼロにする目標を明記した改正地球温暖化対策推進法が2021年5月26日に成立しました。企業にも、排出量の公表や脱炭素の努力の「見える化」が求められてくることから、当社は、2050年度までの脱炭素実現に向けた計画を策定するとともに、WITH コロナを踏まえながら、全社一丸となり、環境理念、環境方針に基づき、環境の保全、維持、改善に次年度も積極的に取り組んでまいります。

● 環境経営方針について

環境経営方針については、見直しの必要はありません。

● 環境経営目標及び環境経営計画について

目標については2019年の実績をもとに作成しましたが、必要に応じて見直しを行って下さい。

● 実施体制について

実施体制については、見直しの必要はありません。

(以上)